

# 全国小学生



第33回「日清カップ」全国小学生陸上競技交流大会が8月19日(土)に日産スタジアム(横浜国際総合競技場)で開催された。男女16種目22名が出場した。16種目内、半分の種目で自己ベスト記録を更新した。広島を代表する山縣亮大選手や木村文子選手もこの大会へ出場し現在に至る。2名の選手に続きたくさんのトップアスリートが広島県から走り出して欲しい。



↑集合写真 ↑女子80mH 小島凛さん(東広島TFC)

種目	名前	所属	予選	準決勝	決勝	備考
5年男子100m	大立 凌輔(5)	三原陸上	14.22 +1.0			ベスト記録更新
6年男子100m	坪倉 福快(6)	庄原AC	13.08 +0.2			ベスト記録更新
男子80mH	古中 幹人(6)	広島JrOC	13.71 -0.5			ベスト記録更新
男子4×100mR	吉田 匠吾(6) 宮田 李輝(6) 阿部 夏基(6) 鈴木斗雄哉(6)	東広島TFC	53.88			ベスト記録更新
男子走高跳	高原夕城斗(6)	三原陸上			1m30	
男子走幅跳	野見 明輝(6)	中野東	4m30 +0.8			
男子ジャベリックボール投	近藤 優成(6)	くろJAC			48m60	ベスト記録更新
男子友好100m	赤宗 拓弥(6)	東広島TFC	14.89 -1.7			
5年女子100m	坂井 実希(5)	びんごWAC	14.09 -0.4	14.24 -0.4		ベスト記録更新
6年女子100m	峰山 渾(6)	CHASKI	13.6 +0.2	13.75 +1.2		
女子80mH	小島 芽(6)	東広島TFC	13.68 -0.5	13.38 +1.4		ベスト記録更新
女子4×100mR	大原 千朋(6) 山根 知紗(6) 前田 椎名(6) 大和 千夏(6)	広島JrOC	56.70			
女子走高跳	荒川 夏都(6)	熊野第四			1m20	
女子走幅跳	宗森瑞璃子(6)	熊野陸上	4m12 +0.7			
女子ジャベリックボール投	菅安 恵子(6)	びんごWAC			43m88	
女子友好100m	藤井 悠乃(6)	広島JrOC	15.55 -0.8			ベスト記録更新

# 全日本中学

第44回 全日本中学校陸上競技選手権大会が8月19日(土)～22日(火)に、えがお健康スタジアム(熊本県民総合運動公園陸上競技場)で開催された。8月8日(土)～9日(日)にシティライトスタジアム(岡山県総合グラウンド陸上競技場)で開催された中国中学校選手権大会では男女総合優勝を果たし、全国大会へ臨んだ。男女合計17種目40名が出場し、その内、男子走高跳・男子走幅跳・女子走高跳の3種目3名が入賞を果たした。

種目	名前	学年	所属	予選		決勝	
				順位	記録	順位	記録
男子走高跳	北野 裕太	3	国春寺	3位	1m87	1m87	1m87
女子走高跳	梅田 羽香	3	高美が丘	1位	1m63	1m63	1m63
女子走幅跳	岡田 麻奈	2	高西	5位	5m49	8位	5m50



↑男子走高跳 / 第4位・1m87cm 北野裕太くん(国春寺中3年) ↑女子走高跳 / 第7位・1m63cm 梅田羽香さん(高美が丘中3年) ↑女子走幅跳 / 第8位・5m50cm 岡田麻奈さん(高西中2年)

# 全国高校総体

秩父宮賜杯 第70回全国高等学校陸上競技対校選手権大会が7月29日(土)～8月2日(水)の5日間に掛けてNDソフトスタジアム山形(山形県総合運動公園陸上競技場)で開催された。地元、エディオンスタジアム広島で開催された中国地区予選会の男子4×400mRではインターハイに出場する権利を獲得することのできる1位～6位を広島県が独占し、過去最高の総勢117名が出場した。

種目	名前	学年	所属	予選		準決勝		決勝	
				結果	記録	結果	記録	結果	記録
男子5000m	デービッド プレ	3	世羅	1組1着	14:11.26	—	—	3位	13:52.10
男子棒高跳	菅 颯一郎	3	神辺川	2組1位	4m80	—	—	3位	4m95
女子800m	徳重 夢乃	2	舟入	3組1着	2:10.86	1組3着	2:09.15	4位	2:09.44
女子3000m	ナオミ ムツノニ	2	世羅	1組1着	4:20.58	—	—	6位	4:19.04



↑男子棒高跳 / 菅颯一郎くん(神辺川) ↑男子1500m / 伊藤田達弥くん(広島舟入)・小林賢人(低園北)

# 国民体育大会

愛媛県では昭和28年に四国4県で合同開催されて以来64年ぶり、初の単独開催となります。みんなで「チーム広島」を応援しよう!



## 愛顔つなぐえひめ国体

10月6日(金)～10月10日(火)の5日間、第72回国民体育大会が愛媛県松山市の愛媛県総合運動公園陸上競技場(ニンジニアスタジアム)で開催される。男子17種目17名、女子12種目12名が、好成績を目指し戦う。日本記録に挑む山縣選手、そしてロンドン世界陸上代表の高山選手、日本選手権2位の渡邊選手など豪華成年選手が得点圏に出そろう。少年選手においては20名中、高校1・2年生が15名という来年度も期待できる選手を選考した。チャレンジャーの気持ちで初日から登場する山形インターハイ棒高跳3位の菅選手を皮切りに、勢いに乗ってもらいたい。

種目	名前	所属	種目	名前	所属
成年男子 100m	松尾 隆雅	東洋大学	成年女子 100m	湯浅佳那子	日本体育大学
成年男子 110mH	高山 峻野	セーレン	成年女子 100mH	福部 真子	日本体育大学
成年男子 走幅跳	真野 友博	福岡大学	成年女子 400m	池崎 愛理	順天堂大学
成年男子 A 100m	山本 隼	広島皆実高校3年	成年女子 800m	漢マー 投	渡邊 潤
成年男子 A 400m	天野 伊織	広島国際学院高校2年	成年女子 ハンマー投	丸和運輸	丸和運輸
成年男子 A 5000m	伊藤田達弥	広島舟入高校2年	成年女子 A 100m	錦築 静花	宮島工業高校2年
成年男子 A 走幅跳	菅 颯一郎	神辺川高校3年	成年女子 A 3000m	平岡 美穂	舟入高校2年
成年男子 A 棒高跳	菅 颯一郎	神辺川高校3年	成年女子 A 走幅跳	梅田 夏季	山陽高校3年
成年男子 A やり投	出海 祥	徳島農業高校3年	成年女子 米1500m	榎原 沙紀	東三津田高校1年
成年男子 共800m	小林 雅	徳島農業高校3年	成年女子 B 100m	丸尾 志穂	広島皆実高校1年
成年男子 共110mH	福本 廉	広島皆実高校2年	成年女子 B 800m	上田 万葉	舟入高校1年
成年男子 共三段跳	安立 雄斗	広島大高校2年	成年女子 B 走幅跳	荒谷 弥希	神辺川高校1年
成年男子 B 100m	山中 大智	広島皆実高校1年	成年少年	湯浅佳那子	日本体育大学
成年男子 B 3000m	高本 裕太	世羅高校1年	成年少年	沖 佳織	愛知教育大学
成年男子 B 走幅跳	乃老 裕介	徳島北高校1年	成年少年	福部 真子	日本体育大学
成年男子 B 砲丸投	大地 智也	神辺川高校1年	成年少年	錦築 静花	宮島工業高校2年
成年少年	高山 峻野	セーレン	成年少年	水原 志穂	広島皆実高校1年
成年少年	松尾 隆雅	東洋大学	成年少年	荒谷 弥希	神辺川高校1年
成年少年	山本 隼	広島皆実高校3年	女子共通 4x100mR	菅 颯一郎	神辺川高校3年
成年少年	福本 廉	広島皆実高校2年	監督	松谷 清志	広島皆実高校
成年少年	山中 大智	広島皆実高校1年		大林 和彦	西条農業高校
成年少年	乃美 裕介	尾道北高校1年			

## 青少年の夢を応援します!

- |   |  |  |   |   |
|---|--|--|---|---|
| <p><b>青少年健全育成 協力企業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●株式会社サタケ</li> <li>●広島駅弁当株式会社</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●株式会社広島銀行</li> <li>●広島ガス株式会社</li> <li>●広島電鉄株式会社</li> <li>●学校法人石田学園</li> <li>●株式会社中電工</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●株式会社もみじ銀行</li> <li>●広島総合警備保障株式会社</li> <li>●有限会社ニシヒコ</li> <li>●アシックスジャパン株式会社</li> <li>●有限会社道後山高原サービス</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●株式会社体育社</li> <li>●中国電力株式会社</li> <li>●大塚製菓株式会社</li> <li>●株式会社ソールグループ</li> <li>●ドラッグ&amp;ファーマシー西日本</li> </ul> | <p><b>特別協力企業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ミズノ株式会社</li> <li>●株式会社キリンビバックス</li> </ul> <p>(順不同)</p> |
|---|--|--|---|---|

# NEWS

**JAAF HIROSHIMA**  
陸協ひろしまニュース  
一般財団法人 広島陸上競技協会  
**第86号**  
H29.9.15発行

# 木村文子

日本勢初となる  
準決勝進出!!

Ayako Kimura



KIMURA  
LONDON 2017



# 2017年 第16回 世界陸上競技選手権大会へ!!

2017年8月4日から13日に開催された世界陸上・イギリス(ロンドン・オリンピックスタジアム)に「チーム広島」から木村・高山選手が出場!

2017 World Championships in Athletics  
**第16回世界陸上競技選手権大会 広島県選手結果**  
 (2017ロンドン)  
 第 第8回 世界陸上競技選手権大会

選手名	所属	出身	Round	種目	記録	7位	登録順位
高山峻野	ゼンリン	広島工大	予選	男子110mH	13秒65	-1.2	4位
			予選		13秒15	-0.9	4位
木村文子	エディオン	祇園北高	準決勝	女子100mH	13秒29	+0.5	8位

陸上人 # FILE0023

**自分のレースが出来たことがうれしい**

**木村 文子** 女子100mH エディオン Ayako Kimura

プロフィール | 木村 文子(きむらあやこ)168cm / 52kg  
 1988年(昭和63年)6月11日生まれ / 可部南小→可部中→祇園北高→横浜国立大→エディオン

主な成績 | ●2000年全国小学生陸上競技大会(国立)80mH●2003年・全国中学校選手権(札幌)走幅跳●2004年 / 国体(青森)少年女子走幅跳⑤5m32●2006年・全国高校総体(大宮)走幅跳⑤5m39、100m障害⑦14.39●2009年・自衛隊(国立)⑨13.88、国体(新潟)⑨13.85●2010年 / 種田記念(広島)⑨13.85、日本選手権(広島)⑨13.80、日本インクル(国立)⑨13.26、国体(千葉)⑨13.59●2011年 / 種田記念(広島)⑨13.28、ゴールデングラプリ(等々力)⑨13.59、日本選手権(熊谷)⑨13.32、アジア選手権(神戸)⑨13.26、全日本実業団(福岡)⑨13.25、国体(山口)⑨13.19●2012年 / 種田記念(広島)⑨13.04、ゴールデングラプリ(等々力)⑨13.31、日本選手権(長岡)⑨13.25、ロンドン五輪-予選⑨13.75全日本実業団⑨13.66●2013年 / 種田記念(広島)⑨13.02(池)・鳥取県立-ゴールデングラプリ(調布)⑨13.20、日本選手権(調布)⑨13.03、アジア選手権(仁川)⑨13.25●2014年 / 種田記念(広島)⑨13.22、ゴールデングラプリ(国立)⑨13.13、日本選手権(熊谷)⑨13.34、南都記念(広島)⑨13.48、コンチネンタル杯(モロコ)⑨13.17、CJリーグ大会(韓国)⑨13.25 ※2009年の種目にはすべて100m障害

自己ベスト | 100mH 13秒03(-0.6) 2013年日本選手権

2017年8月、ロンドン競技場。世界最高峰の舞台で、広島出身の2人のハードラーが躍動した。女子100m障害の木村文子(エディオン、祇園北高出)、男子110m障害の高山峻野(ゼンリン、広島工大高出)だ。木村はこの種目では日本人初となる準決勝進出を果たし、高山も初の大舞台で堂々としたレースを披露。ともにロンドンの地に確かな足跡を刻み込んだ。

11日の女子100m障害予選2組。第5レーンの木村は、淡々と号砲への準備を整えていた。準決勝に進めるのは上位4人。出場8選手の中で自己記録(13秒03)は7番目という厳しい戦いにも、「コーチには『楽しめ』と言われていたし、やることはやっとなしていたので、すっきりしてレースに臨めた」。経験豊富な29歳は落ち着き払っていた。

勢いよく飛び出し、巧みなハードリングで上位争いに食い戻った。終盤は海外勢の追い上げを背中中で感じながらも、「冷静に自分の動きに集中できた。粘りきりました」。懸命に胸を張ってゴールした後は、場内の電光掲示板を凝視。4番目に13秒15で「Ayako Kimura」の文字がとると、両拳

を握って喜びをかみしめた。「狙い通りです」。報道陣にも満面の笑みを振りまいた。2012年8月のロンドン五輪。木村は大観衆が見つめるロンドン競技場で、同じ第5レーンに立っていた。「陸上競技をやってきて良かったと思えた」と感慨を覚えた一方、予選のレース結果は自己ベストに程遠い13秒75で最下位。「後で振り返れば、雰囲気にはまっていた。地に足がついていなかったと思う。13年秋には左太ももの大けがという挫折も経験。日本人初の準決勝進出の快挙は、木村がこの5年間歩んできた再起と成長の物語でもあった。

11日夜の準決勝。全世界で24人しか進めるレースで名前を紹介されると、自然な笑みがこぼれた。「もっと緊張するかなと思っていただけ、幸せでした。うれしくて、早く走りたいなと思わせてくれるレースだった」。まずまずのスタートから粘り、後半は他の選手との接触でバランスを崩しながら13秒29の8着でフィニッシュ。世界との差を実感した一方で、「この場所に自分が立てたことを誇りに思う。これで私を超える選手がどんどん出てくるんじゃないかと期待している」。第

一人者としての自覚をにじませた。22歳の高山も貴重な経験を積み上げた。「6月の日本選手権と比べると、60~70パーセントの状態」と不満に苦しみながら臨んだ6日の男子110m障害予選。向かい風1.2mの中で果敢に飛び出し、3台目までは先頭で通過。「5、6回は腕がぶつかり合っ」という激戦の末、最後は海外勢にかわされて13秒65の7着でゴールした。

2017年を「経験の年」と位置付け、「想定していなかった」という世界陸上の舞台。「調子が上がらない中、13秒6台が出て良かった」と手応えを得た一方、「世界と戦うにはパワーが足りない」とあらためて課題も自覚。2020年東京五輪との先を見据えるホープは、ロンドンから確かな収穫を持ち帰った。

2人は5月に男子100mの山縣亮太(セイコーホールディングス、修道高出)を交えて横浜市で合同練習を実施。木村は「マンアックでレベルの高い話もできた」と笑う。木村からリレックをもらい受けたという高山も「ハードル界の第一人者」に、いろり高に掛けていただいている。ありがたい」と同郷の先輩に感謝。山縣も含めた「チーム広島」の結束も、世界での活躍を下支えた。

日本人初の12秒台を狙う木村には、新たなステージも見えてきた。「次のステップとして、(世界の)準決勝でどんなふうに対戦するか。そういう形で目標を設定できると思う」。高山も日本記録(13秒39)の更新、そして日本人初の13秒0台を視野に入れた上で、「まだまだ調子の波が激しい」と筋力アップによる安定感を追求する。

広島で生まれ育ち、今は日本のハードル界をけん引する2人が「世界」を足掛かりにどんな成長を見せるか。今後の走りや跳躍から、一層目が離せなくなってきた。

text by K



↑女子100mH予選で力走する木村選手

**木村文子**  
 エディオン女子陸上競技部

この度、イギリスのロンドンで行われた世界選手権に出場させて頂きました。7月末にIAAFからのインビテーションを頂き、急遽、派遣が決まりましたので、準備に要する時間が限られておりましたが、世界の舞台で走れるチャンスを頂けたことに感謝しチャレンジしてまいりました。結果、これまで目標としていた世界大会準決勝進出を果たすことができました。5年前に出場したロンドンオリンピックと同じ競技場で走れたことをとても懐かし感じ、その時よりも競技者として少し成長した自分がいたように思います。この5年間、海外でのトレーニングや転戦をしてきたことにより、どんな舞台でも、どんな相手でも自分のレースをすることの重要性を学びました。それをコーチやいつもサポートして頂いているスタッフの皆さんと一緒に作り上げ、今大会の世界選手権の予選で発揮できたことが、準決勝進出に繋がったと思います。

また、これも日頃のトレーニングの積み重ねが実を結んだと感じております。エディオンに所属してから、広島を拠点にトレーニングを継続し、各スタジアムをはじめ、私立高校のグラウンドも利用させて頂いております。世界選手権前にも、いつもと変わらないトレーニングを継続させて頂くこともでき、更には急遽派遣が決まったにも関わらず、サプライズの壮行会をグラウンドで開催していただきました。広島県の皆さまのご配慮には大変感謝申し上げます。

そして、今大会の男子110mハードルには同じ広島県出身の高山選手(ゼンリン)も一緒に出場することができました。世界の舞台で同郷の仲間とともに戦えたことは大変嬉しいと思います。また、高山選手・山縣選手(SEIKO)とは3人で日本記録更新を目指しています。こまま走り続けることができているのも、広島県の皆さまの温かいご支援のおかげです。これからも選手同士で切磋琢磨しながら、引き続き、記録の更新に向けて精進してまいりたいと思います。今後とも応援よろしくお祈りします。

**高山峻野**  
 ゼンリン

8月4日から8月14日にかけて行われ、世界選手権陸上に110mHで出場しました。この場をお借りましてご報告させていただきます。

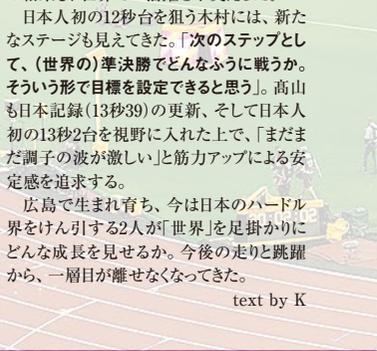
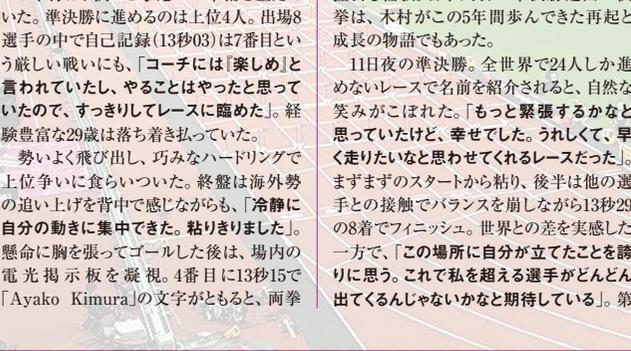
結果は13秒65で予選の組7着で予選落ちでした。スタートからの飛び出しに成功し得意のレース展開に持ち込めのですが、中盤から後半にかけて徐々に差をつけられてしまいました。やはり世界の壁は簡単には超えられないものだと思感したと同時に、さほど他の選手との差を感じなかったのも、私自身がステップアップしていけば海外選手にも勝てるかと確信しました。

今回は世界大会の独特な雰囲気や、強い人とのレースなど、普段日本ではなかなかできない貴重な経験ができたことが大きな収穫でした。これからしっかりと練習を積み重ねて次の大会に挑戦できればと思いますので、引き続きご声援のほど、よろしくお祈り致します。

この度は、たくさんの方の応援を頂き、とても励みになりました。本当にありがとうございました。



↑男子110mH予選の高山選手



**松尾紗也可**  
 エディオン女子陸上競技部マネージャー

ロンドンの地でもう一度走りたい、と普段練習の時によく口にしておりました世界選手権へ、この度インビテーションを頂き出場することができました。そして、準決勝進出を果たすことができました。出場が決まってから短期間にも関わらず、日頃から応援して下さっている方々が激励に直接練習場所まで足を運んでくださり、改めて広島の皆様に応援していただいていることを感じました。レース当日も沢山の方が応援メッセージをくださり、木村だけでなく皆様のお力が今回の準決勝進出に繋がったのだと思います。この度の経験を松尾もまた新たな目標ができたと思います。日本記録更新に向け、共により一層精進致しますので引き続き応援よろしくお祈り致します。

女子100mH準決勝でゴールする木村選手→



第71回 **中国五県陸上競技対抗選手権大会**

第71回中国五県陸上競技対抗選手権大会は8月19日~20日の2日間、鳥取県布勢市のコカ・コーラウエストスポーツパーク陸上競技場(布勢総合運動公園陸上競技場)で開催された。広島県からは男女294名出場し、その内108名が入賞を果たし、広島県としては第2位の岡山県と男女合計約110点の差を付け434点で男女総合優勝を果たした。

第1位	広島県	434点	男子 / 233点	女子 / 201点
第2位	岡山県	324.5点	男子 / 154点	女子 / 170.5点
第3位	山口県	175.5点	男子 / 96点	女子 / 79.5点

**広島県総合優勝!!**

**中国五県No.1への感謝**

このたびの鳥取で行なわれました「第71回中国五県陸上競技対抗選手権大会」に多くの競技者がご参加いただきありがとうございました。炎天下での競技ではありましたが、熱戦に次ぐ熱戦を繰り広げられました。その中で、広島県からの参加選手は全力で競技をしていただき見事に総合優勝を果たすことができました。広島県の得点は、地元で開催した第54回大会(2000年)以来の400点台となり男女合計434点という高い点数を獲得してくれました。

また、男子のみでなく女子も五県1位を勝ち取り男女総合完全優勝を成し遂げることができました。これもひとえに皆様のお力添えによるものと、広島陸協の会長としてお礼を申し上げるとともに、たいへん喜びを感じております。感謝の一言に尽きます。この夏の感激を秋のシーズンでも引き続き味わうことのできるよう、そして、これから続く多くの大会で広島県の競技者が輝くことができるように、協会をあげて活動していきます。これからもご協力、ご指導のほどよろしくお祈り申し上げます。

(一助) 広島陸上競技協会 会長 **三宅勝次**

